

科目 No.454 リスク学事例研究6 リスクの回避と工学の役割	<b>講義名： 6. 予想外のリスクを回避する工学の役割</b>
	講師名：宇野 洋(SCE・Net)

**講義概要**  
 一般に、予想外の事故のように見える事故も、ほとんどは予想範囲を広げる手段が残されている。事象事例を具体的に解析して、リスクの評価とその対策を講ずることにより防ぎうるものであることを解説・提言する。

**目次**  
 1. 生産技術と潜在危険 2. 事象事例の検討( 油圧装置空気槽の爆発 RDF貯槽の爆発 原発高圧注入系蒸気配管の爆発 ウラン燃料製造中の臨界事故) 3. 各事故から共通点を探る 4. 予想外の事故を減らすために 5. まとめ

生産技術は、その中に潜在する危険性を顕在化させないために、各種の「防護」が組み込まれている。しかし、それは完全なものではなく、又、環境変化や時間の経過とともに劣化しやすいものであり、常に組織が関与して修復しなければ潜在危険が顕在化することを事例から検討を進める。

予想外の事故と思われそうな事例を検討していくと、

防護する措置が、年を経る間に劣化・消滅し、無防備な状態になっている。

事故前の兆候を軽視したり、事故が類推できる他の事故例を学ぶことなく、防護を構築していない。

リスクの分析・評価の範囲が狭く、他業種における常識的危険が見逃されている。

変更管理など、組織的、技術的判断システムが機能していない。

などが指摘できる。

この講座では、その底辺にある組織的な欠陥等についても解説し、予想範囲を広げるための提言を行う。組織活動状態の見直し材料として使われることを期待する。

